

## 第13回須坂新校再編実施計画懇話会

日時：令和5年10月20日（金）

午後6時～7時30分

会場：須坂市生涯学習センター 3階 ホール

### <次第>

#### 1 開 会

#### 2 挨拶

#### 3 会議事項

(1) 「第12回須坂新校再編実施計画懇話会」のまとめ

(2) NSDプロジェクトについての説明

(3) 統合方法についての意見交換

#### 4 その他

##### <次回の予定>

(1) 第14回須坂新校再編実施計画懇話会

(日時) 令和6年1月～2月を予定

(会場) 須坂市生涯学習センターを予定

(内容) NSDプロジェクト等、進捗状況の説明

#### 5 閉 会

須坂新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	氏名	所属等
1	自治体	三木 正夫	須坂市 市長
2		新井 隆司	小布施町 副町長
3		藤沢 敏和	高山村 副村長
4		小林 雅彦	須坂市教育委員会 教育長 (座長)
5	産業界	春原 博	須坂商工会議所 専務理事
6		神戸 佳代	小布施町商工会 女性部長
7		久保 正直	アスザック株式会社 代表取締役社長
8	同窓会	浅井 洋子	須坂東高等学校同窓会 会長
9		霜田 剛	須坂創成高等学校同窓会 副会長
10	学識経験者	半田 志郎	国立大学法人信州大学工学部 特任教授
11	PTA	米山 宏貴	須坂東高等学校PTA 会長
12		柴田 弘彦	須坂創成高等学校PTA 会長
13		赤城 千恵美	上高井郡市PTA連合会 副会長
14	小中学校関係者	坪井 扶司夫	上高井校長会 代表 (墨坂中)
15		富沢 孝	上高井校長会 代表 (仁礼小)
16	地域	尾島 信久	長野地域振興局長
17		二ノ宮 邦彦	元 県立高等学校長
18		大宮 透	元 慶応SDM・小布施町ソーシャルデザインセンター主任研究員
19	再編対象校	堀内 煌大	須坂東高等学校生徒会 会長
20		関 怜士	須坂東高等学校生徒会 副会長
21		山口 隼	須坂創成高等学校生徒会 会長
22		木村 友香	須坂創成高等学校生徒会 副会長
23		山田 純子	須坂東高等学校長
24		山岸 暢	須坂東高等学校 教諭
25		羽山 功	須坂創成高等学校長
26		市村 宣幸	須坂創成高等学校 教諭

事務局

須坂東高等学校		須坂創成高等学校		高校再編推進室	
宮下 由夫	教頭・副事務局長	宮川 敏晃	教頭・事務局長	柳澤 弘蔵	主幹指導主事
鳴田 順一		市村 宣幸		有坂 清明	主任指導主事 (須坂新校担当)
酒井 健次		柳澤 亘		井出 敦	主任指導主事 (須坂新校副担当)
山岸 暢		春原 真			
高坂 亨		河野 健一			

## 第12回 須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和5年7月18日(火) 18時00分～19時45分		
場所	須坂市生涯学習センター 3階 ホール		
出席 (敬称略)	三木 正夫, 新井 隆司, 藤沢 敏和, 小林 雅彦, 春原 博, 神戸 佳代, 久保 正直, 浅井 洋子, 霜田 剛, 米山 宏貴, 柴田 弘彦, 赤城 千恵美, 坪井 扶司夫, 富沢 孝, 尾島 信久, 二ノ宮 邦彦, 山口 隼, 木村 友香, 山田 純子, 山岸 暢, 羽山 功, 市村 宣幸 (以上22名)		
欠席 (敬称略)	半田 志郎, 大宮 透, 堀内 煌大, 関 怜士	傍聴者	4名
事務局	須坂東高校	宮下 教頭(副事務局長), 嶋田 教諭, 酒井 教諭, 山岸 教諭, 高坂 教諭	
	須坂創成高校	宮川 教頭(事務局長), 市村 教諭, 柳澤 教諭, 春原 教諭, 河野 教諭	
	県教育委員会	柳澤 主幹指導主事, 井出 主任指導主事, 有坂 主任指導主事	
当日資料	次第, 第11回須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案), 須坂新校(仮称)再編実施基本計画, 講演メモ		

## 会議事項

- (1) 第11回須坂新校再編実施計画懇話会のまとめ(案)
- (2) 再編実施基本計画の報告と今後の予定
- (3) 講演「コミュニティデザインハイスクールで何ができるか」

講師 (一財)地域・教育魅力化プラットフォーム 開発研究員 岡崎 エミ 先生

## 構成員から出された主な意見(要旨) (⇒岡崎先生回答)

## &lt;岡崎先生講演項目&gt;

- コミュニティデザインとは何か? ○コミュニティデザイン学科でやったこと
- SCH(スーパーコミュニティハイスクール)シンポジウムとは何か?
- SCHシンポジウムが小規模校サミットに ○小国高校の失敗 ○高校を核にした地方創生は可能か?

## &lt;質疑応答、感想など&gt;

- 小国高校の先生方が変わったきっかけは何か。  
⇒きっかけは東北初のコミュニティスクールに指定されたこと。何かを始めようとする人、それを応援する人、それに巻き込まれる人の3つがそろったのが大きかった。
- 小国高校の課題を聞かせてもらったことが勉強になった。
- 教員のコミュニケーションという点で、年配の先生と若い先生が融合するにはどうしたらよいか。  
⇒第三者が入ること。外で学んで帰ってきてもらうこと。信頼関係からしか始まらないのでそれを知ってもらうこと。何のためにやるのかはっきりさせること。
- 岡崎先生のワークショップを両校の教員が受けるということがあってもよいのではないか。
- 生徒が来てくれると実は企業も勉強になる。生徒が来てくれて会社も成長することは大事にしていきたい。  
⇒高校生、大学生、企業の新人を組み合わせることで学ぶことが良いというのはある程度データが出ている。
- 小国高校の生徒の皆さんが生きて生きて、自分の意見、考えを言えるというのがすごい。感動した。先生が変わって、生徒たちもその先生を見て楽しく変わっていく、それが実現できる新校になるよう、話し合っていきたい。

## その他

## 【次回】

日時：令和5年10月の実施を予定

内容：NSDプロジェクトの説明、統合方法に関する意見交換

## 第12回懇話会終了後に実施したアンケートより

## 1. 岡崎先生への質問

- 小国高校の失敗の具体と今後の方策をもう少し聴きたかった。具体的な事例を知りたい。
- 小国高校の失敗の原因として「町は金を出すだけになったこと」「教員の人事異動により困難になったこと」を挙げられていた。その課題を小国高校ではどのように解決しようとしているのか、方向性や具体策等があれば教えていただきたい。

## 2. 岡崎先生からの回答

- 小国高校の失敗への対策について、まさに今模索中。
- 「小規模校サミットをどうするか」ということについて、以下を整理していく。
  - ・生徒がやりたいかどうか
  - ・サミットという行事をカリキュラムにどう位置付けていくか
- 教員の行動や意識変容について
  - ・校長とある程度課題感を共有できたが、具体策はまだ策定していない。
  - ・今後残っていく先生方に対しては、越境学習ができる予算をつけて、学んでもらうのがモチベーションアップにはよいのではないかと思う。
- 地域協働について
  - ・次年度予算を取ってもらえるように町にお願いしているところ。
- その他
  - ・卒業時の進路をどう設定し、どう指導していくかは重要なので、教務、キャリア、生徒指導・探究の主任3名と体制づくりや指導方法を開発していく。

## 3. その他感想、意見

- 人とのコミュニケーションはとても大切なことであり、豊かな学びの土壌があるが故に、学校と地域との協働によって、生徒や住民がともに成長していくことは素晴らしいと思う。
- 先生が新しいことにチャレンジすることは大切。子どもたちに楽しむ姿を見せることで、より生徒と先生との親近感が湧いてくると思う。町を絡めた取組（先生→生徒→町）はとても重要だと思う。
- 「理念」や「目的」の明確化と共有、継続可能な手法の構築などの大切さを感じた。
- これを機会に今後岡崎先生にかかわっていただき、助言をいただけないか。
- 「コミュニティデザインとは、地域の人が地域の課題に対して、コミュニティー自らが課題解決をし、地域をデザインすること」という定義がされた。そうした地域の課題発見から、カリキュラムマネジメントをしていくことが大切だと思った。
- 先生方のやる気、意欲が生徒やその町のやる気につながることは、改めて心に残った。教員のやる気を喚起するための方策（研修内容や方法）を具体的に考えたい。
- 東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科での様々な取組は、須坂新校で学ぶ生徒たちに生かせる部分は多くあるように感じた。
- 小国高校の変容についての様々な取組は、須坂新校の創設及び発展のために参考になるべきことがいくつもあると思う。

Nagano School Design 2020 + A

# Nagano School Design プロジェクト ～須坂新校～

みんなでつくる未来の学校  
「学校づくり - ひとづくり - 地域づくり」

高校教育課  
高校再編推進室

1

## NSDプロジェクトとは【これまでの経過と理念】

### 施設の老朽化を考慮しつつ、必要な学校施設の整備を行う

1950年 文部省（現文部科学省）・日本建築学会  
「鉄筋コンクリート造校舎の標準設計」を作成

長野県の県立学校でも、似たつくりの校舎が多数存在

この70年ほどの間に社会は大きく変化

「学び」や「学び方の変化」に伴い、学校の「つくり」や「つくり方」を見直し  
これからの時代 これからの学びにふさわしい学校空間の整備



教室棟（1968年建設）

2

県立学校学習空間デザイン検討委員会  
最終報告書「長野県スクールデザイン2020」(2020年8月)

これからの時代：変化が激しく予想困難な時代

1 どんな時代や状況にも対応できる、フレキシブルな空間

これからの学び：主体的な学び、探究的な学び／個別最適な学び、協働的な学び

2 いろいろな学び・さまざまな人数 ⇒ 多様性をもつ学びの空間

学習空間の捉え直し：生徒・教職員・地域にとって必要な要素を包含した施設

3 「学習」・「生活」・「執務」・「共創」という4つの要素に整理

空間の「質」：子どもたちが生き生きと過ごす空間

4 機能性と快適性、空間の「重ね使い」、屋外とのつながり、家具などの重要性

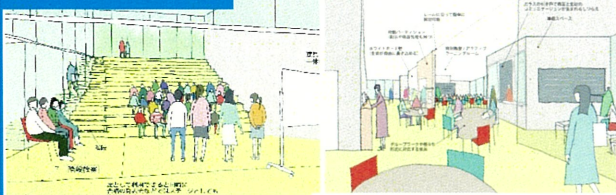
地域と共生する学校：地域にとってのかけがえのない拠点施設

5 県の多様な自然環境・地域性を考慮、地域施設との連携や役割の分担を検討

3

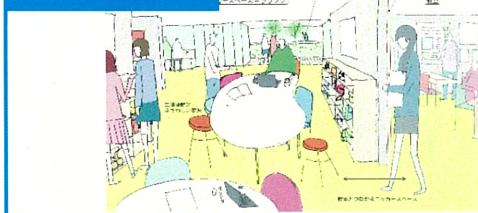
県立学校学習空間デザイン検討委員会  
最終報告書「長野県スクールデザイン2020」(2020年8月)

学習空間



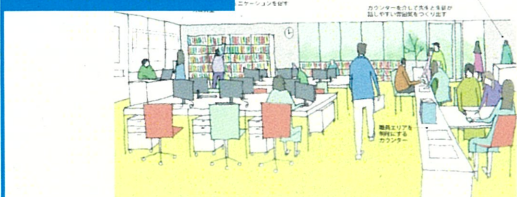
階段教室とフレキシブルホール  
FLA  
(フレキシブルラーニングエリア)

生活空間



ラウンジ・ロッカー

執務空間



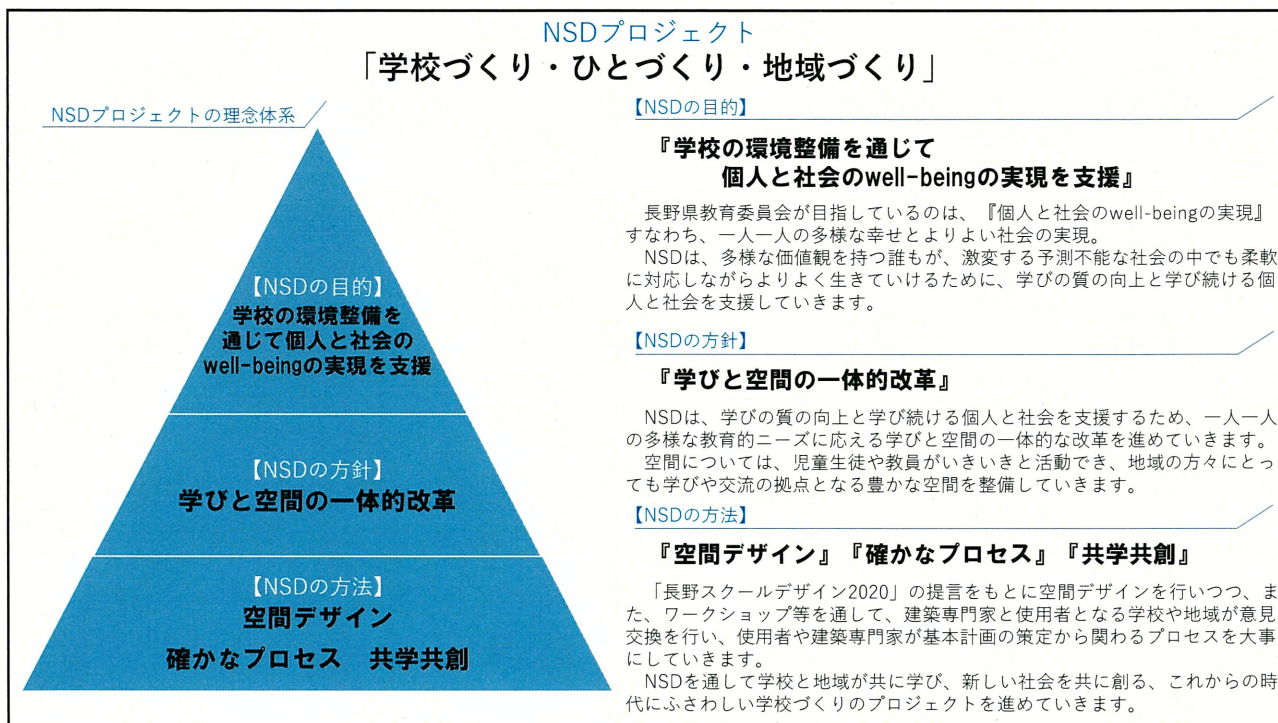
大職員室

共創空間

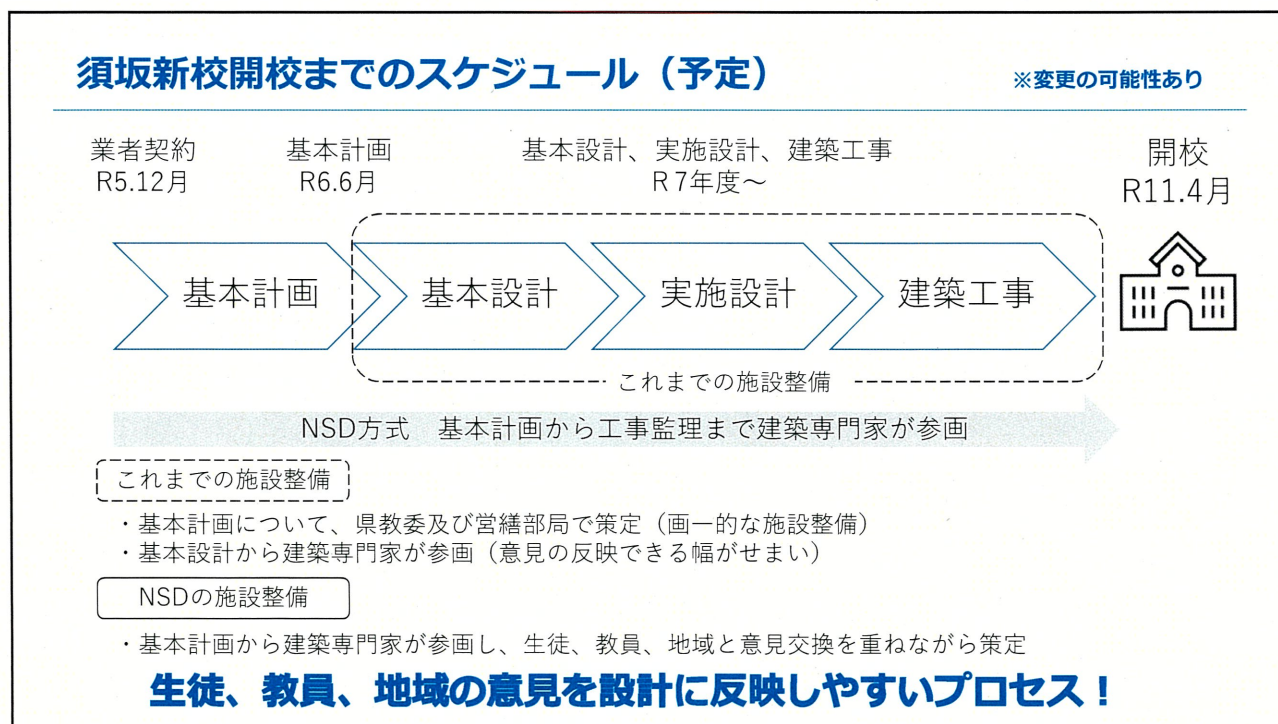


地域連携協働室

4



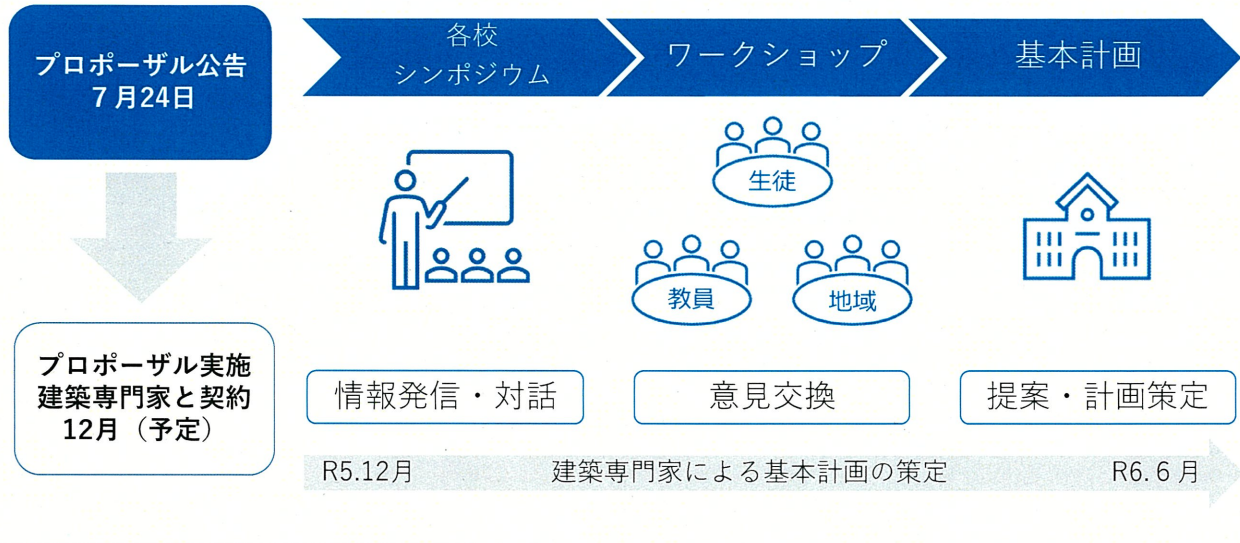
5



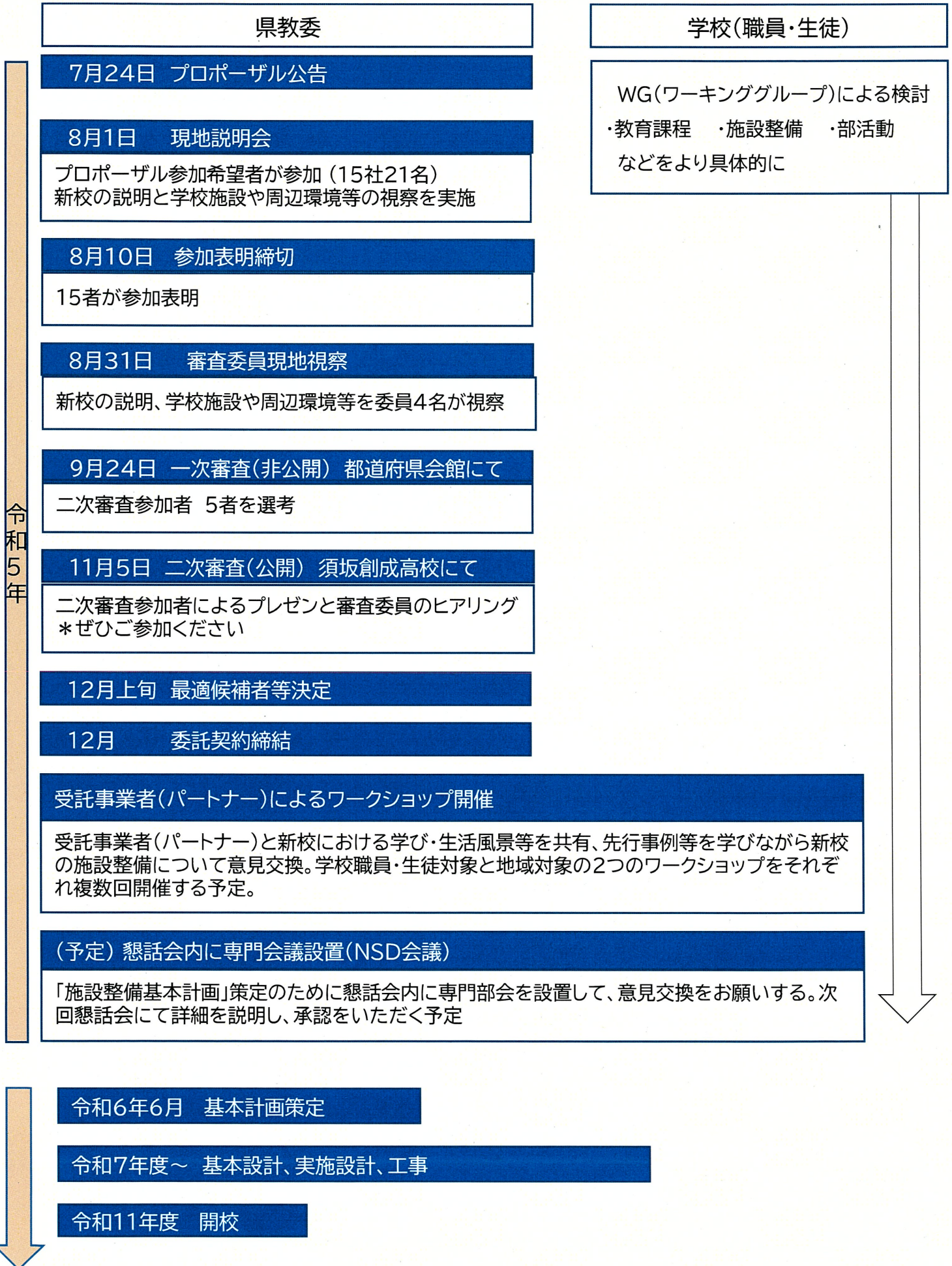
6

「プロセス」 生徒、教員、地域と意見交換を重ね、  
建築専門家により基本計画へ反映

シンポジウム、ワークショップ等により、多様な意見を基本計画に反映







統合の方法について

<年次統合> 年度を追って、統合が完成（新校完成は令和13年度）

令和11年度	<須坂創成・須坂新校校地>		<須坂東高校校地>		式典等  須坂新校 開校式典
	須坂創成(令和9年度入学)	3年	須坂東(令和9年度入学)		
	須坂創成(令和10年度入学)	2年	須坂東(令和10年度入学)		
	須坂新校(令和11年度入学)	1年			
須坂新校募集開始、須坂東・須坂創成募集停止					

令和12年度	<須坂創成・須坂新校校地>		<須坂東高校校地>		須坂東 閉校式典  須坂創成 閉校式典
	須坂創成(令和10年度入学)	3年	須坂東(令和10年度入学)		
	須坂新校(令和11年度入学)	2年			
	須坂新校(令和12年度入学)	1年			

令和13年度	<須坂新校校地>		<須坂東高校校地>		須坂新校完成
	須坂新校(令和11年度入学)	3年			
	須坂新校(令和12年度入学)	2年			
	須坂新校(令和13年度入学)	1年			

<一斉統合> 年度を追わず、一気に統合が完成（新校完成は令和11年度）

令和9年度	<須坂創成高校校地>		<須坂東高校校地>		式典等
	須坂創成(令和7年度入学)	3年	須坂東(令和7年度入学)		
	須坂創成(令和8年度入学)	2年	須坂東(令和8年度入学)		
	須坂創成(令和9年度入学)	1年	須坂東(令和9年度入学)		
令和8年度の生徒募集の際に3年生になったら須坂新校生となることを周知					

令和10年度	<須坂創成高校校地>		<須坂東高校校地>		須坂東 閉校式典  須坂創成 閉校式典
	須坂創成(令和8年度入学)	3年	須坂東(令和8年度入学)		
	須坂創成(令和9年度入学)	2年	須坂東(令和9年度入学)		
	須坂創成(令和10年度入学)	1年	須坂東(令和10年度入学)		
令和9年度の生徒募集の際に2年生になったら須坂新校生となることを周知					

令和11年度	<須坂新校校地>		<須坂東高校校地>		須坂新校 開校式典
	須坂新校(令和9年度両校入学)	3年	2・3年生は須坂東・須坂創成 から須坂新校へ転校		
	須坂新校(令和10年度両校入学)	2年			
	須坂新校(令和11年度入学)	1年			
須坂新校募集開始、須坂東・須坂創成募集停止					